

GunMaaSサービスの高度化

車依存社会である本県において、これまでも車利用から公共交通機関利用への転換を図ってきたが、対面販売方式が主流となっている定期券販売のDX化などの利便性向上に向けた新しい取組を行うとともに、P & B Rにおいては、車と公共交通機関のハイブリッド利用を推奨することにより、郊外にある大型商業施設と連携した新サービスの実施を目指す。

協議会の 構成員	【幹事（事務局）】前橋市 東日本旅客鉄道株式会社、一般社団法人群馬県バス協会ほか	
地域 課題	● 公共交通維持のための市の財政負担の増加 ● 都道府県別の自家用乗用車の世帯あたり普及台数（全国4位） ● 市民1人あたりの路線バス利用者数（54位／中核市58市中） ● 都道府県別の乗合バス利用者数（全国41位） ● 都道府県別の1万人あたりの自転車事故件数（9年連続ワースト1位）	
事業 概要	サービス 開始時期	バス定期券DX化：令和7年1月頃 バス等の乗継による割引サービス：令和7年1月頃 Cogbe連携：令和7年2月頃 モビリティハブ実証実験：令和7年1月頃 新モビリティ利用促進実証実験：令和7年1月頃
	事業エリア	前橋市全域及び隣接地域
	MaaS システム	JR東日本が提供するMaaSプラットフォーム「モビリティ・リング- ジ・プラットフォーム」を活用し「GunMaaS(グンマース)」として webサービスを提供。（MaeMaaSを群馬県下に拡大）
	交通サービ ス	● 市内バス事業者における定期券をGunMaaSで購入 ● 複数のバス等の利用者に対する割引サービス ● シェアサイクルアプリとのGunMaaS連携 ● 商業連携によるモビリティハブ実証実験 ● 新モビリティの普及及び利用促進実証実験
	交通以外の サービス	● モビリティハブ参加商業施設から利用者への特典付与
事業 目的	● 車依存社会からの脱却 ● 公共交通機関利用者の増加 ● 公共交通事業者の業務の簡素化 ● 自転車事故の減少 ● 公共交通機関利用者の行動変容に伴う地域の活性化 ● 大型商業施設等との商業連携 ● 当該事業の利用者等の行動変容等に伴う各種データの収集及び分析	

事業イメージ

南北幹線強化とGunMaaS連携によるP&BRサービス・バスDX化

③P&BRサービス

既存施設の駐車場空きスペースを活用し、自家用車と公共交通の共創を実現する。

②乗継割引DX化

乗継パターン
①地域連携バス→地域連携バス
②地域連携バス→デマンド交通

①バス定期券DX化

※成果を見て将来的にハード整備の計画策定・業の交通としてのパーソナルモビリティのモニター実証（R6年度）

枝の交通の強化

都市間交通
新幹線・電車
都市部
生活施設
バス路線の輸送力強化
シェアサイクルの追加→
認証基盤の拡張→
パーソナルモビリティ・シェアサイクル等

GunMaaSプラットフォーム拡張

←データ分析・活用

評価指標

- バス利用者の増加率
- バス定期券のWEB購入割合
- 公共交通事業者の窓口業務の負担軽減割合
- バス等の乗継利用者に対する割引サービス利用者数
- 車通勤から公共交通機関利用通勤への転換者数
- 市の予算に占める公共交通事業者に対する公的負担割合
- モビリティハブ利用者に対し商業施設が発行するクーポン等の利用割合
- 市内における交通事故発生件数

今後の方向性

- モビリティハブの実証実験の結果を踏まえ、今後の取組方針を策定
- 新モビリティ利用促進実証実験の結果を踏まえ、今後の取組方針を策定
- マイナンバーカードを活用した年齢定期券の販売に向けた検討を実施